

# 市民会館・市民文化ホールのあり方検討会

## ご意見をいただいた項目別一覧

### ◆現在の文化施設への評価や不満

#### <共通項目>

- 概観
- ・どこも一長一短で、全部備えたホールがない。
  - ・市民会館と文化ホールは暗い印象があり、老朽化しており、楽しくない。
  - ・観る側のレベルが上がっているのに、舞台機構を中心に、多くが求められるものに達していない。
  - ・有名アーティストのコンサートは倉敷市民会館で行われる…という感覚がある。
  - ・施設の立地に関してはおおむね良い。
- 設備
- ・ステージが狭い、袖が狭い（特に下手は狭すぎて緊急時に問題がある）、奥行きがない、バックヤードがほとんどない、バトンも少ないなど舞台機構が総じて弱い。
  - ・搬出入の問題（大型トラックの横付けができない、搬入道路が坂になっている、搬入口とステージがフラットでなくエレベーターを使う、ホール内に障害物があるなど）から舞台装置が入らない、組めない等で実施できない事業がある。
  - ・楽屋の数が少ない（特に市民会館）。文化ホールとシンフォニーホールでは楽屋がステージと別階にあり移動も大変。
- 観客
- ・玄関ロビーがない、または狭い。そのため、市民会館と文化ホールでは開場前に外に並ぶ状況になり、雨天時などは危険。シンフォニーホールでも階段をらせん状に並ぶことがあり危険。また、高齢者や車椅子の方の待てるスペースがなく、他都市のホールに比べてあまりに寂しく地味。
  - ・総じて女性トイレが少ない。すべて洋式にしてほしい。
  - ・客席の質が悪く間隔が狭く窮屈。
  - ・客席数は賛否両論（良いという声と、多すぎるか少なすぎるという声もある）。
- 駐車場
- ・搬出入用の大型トラックが施設に留置できない。関係者（主催者）用駐車場がほとんどない、または使いづらい。
  - ・観客駐車場がないか非常に遠い。また、観客用のバスの横付けができない。
- その他
- ・バリアフリーでない（市民会館では半地下に降りられず物販に行けない）。
  - ・催物の告知が分かりづらい、広報活動が弱い。
  - ・行政の運営では、対応がフレキシブルでない面がある（開館、退館時間など）
  - ・基本的に貸館で、管理者としての位置づけが小屋のお守りでしかない。
  - ・一部の市民しか利用していない。若い世代には自分たちには関係がない世界、施設だと思っている。

### <岡山市民会館>

- 概 観 ・ 建築、ステンドグラスなどに美意識がある。  
・ 施設が風景と一体となっている。都心創生まちづくり構想で場所を移さないといけないことの意味が分からない。
- 設 備 ・ 音響が悪い、ピアノが古い、舞台裏の通路が狭い。  
・ リハーサル室、練習室がまったくない。
- 観 客 ・ 二階席の奥からステージが遠い。
- その他 ・ 会議室が多いのは良いが、ホールとは機能的にも人の流れ的にも関連していない（大会議室、中会議室は大部屋の楽屋として使うこともあるのでモニターを入れてほしい）。  
・ 一般市民としては、規模が大きく利用方法があまり思いつかない。

### <市民文化ホール>

- 概 観 ・ 主催者にとっても、観客にとっても階段ばかりの建物で移動が苦しく危ない。
- 設 備 ・ 音響が悪い、舞台裏の通路が狭い、舞台上で雨漏りがする（※現在は補修済み）。  
・ リハーサル室があるのは良いが、モニターがない。  
・ 楽屋がかび臭い。  
・ 白い壁がメディアアートを活用するのに有効。
- その他 ・ 芸術文化団体向けへの使用料減免があり利用しやすい。  
・ ややアクセスしづらい場所にある。小橋電停が近いが、公演終了後は人が溢れかえり危険な状態。

### <岡山シンフォニーホール>

- 概 観 ・ 音の響きが良く音楽専門ホールとしての質は高いが、大型のセットが入らないのでオペラ、ミュージカルなどが行いにくく、公演できるソフト事業に限界がある。  
・ 狭いところに無理に作ったため、不具合が多い。
- 設 備 ・ 中小ホールがない。室内楽等の観客との親密なやり取りには向かない。  
・ スタジオがあるが、練習室として気軽には使えない。  
・ 搬出入口、楽屋の配置、階段等の安全性の問題については改善が求められる。
- 観 客 ・ 館内の移動が全て階段。3階席などは高いところまで上らなければいけないので高齢者には大変厳しい。
- その他 ・ 使用料が高すぎる（大ホールは使用する客席数に応じての料金設定がほしい）。

## 【ハードウェア】の視点

### ◆ホールのタイプや規模・機能

#### 建設予定の各種施設の統廃合、単独設置などは？

- ・ 一体整備と別整備については用地のこともあり、判断できることではない。
- ・ 一体・別整備に関わらず、優れた芸術文化鑑賞目的の大ホールと、市民の芸術文化の発表や創造目的の中ホールという位置づけでよいのでは。
- ・ 一体整備の場合は、大ホールの音や振動が中ホールに干渉すること（躯体振動音の発生）もあるので、専門家を入れて緩衝帯を設置するなど気をつけるべき。
- ・ 併設、隣接が望ましい。いずれにしろ同じエリアに設置し、練習室やギャラリーなどを併設させた芸術村として、一帯を創造のゾーンとして構築するべきでは。（鑑賞のカルチャーゾーンと共鳴させて、両ゾーンを現代美術などの芸術回廊でつないでまちづくりを考える）
- ・ シンフォニーホールの目的、位置づけを明確にする必要がある。（3つの施設の棲み分け）

#### ホールで行うジャンル（演劇・音楽・コンベンションなど）や施設の規模・機能は？

##### 大ホール

- ・ 優れた芸術鑑賞ができる質の高いホール。
- ・ 広い搬入口、広い舞台袖、広いバックヤード、高いスノコ高、高機能の舞台機構・照明・音響設備など、様々な機能を備え、プロ仕様を満たすものを。
- ・ コンベンションや大会の開会式やセレモニーでも使える都市の顔となるホール。（コンベンションそのものとは使用目的や規模が違うが共存する部分もある）
- ・ 同規模プラス（1,800～2,000席）で多目的のプロの芸術鑑賞中心のホール（音楽専門ホールはシンフォニーホールがあるので棲み分けの意味でも必要ない）。
- ・ 現在と同規模（1,500～1,800席）で客席数可変タイプを。
- ・ 現在の使用実績を継承した音楽的要素を主とした1,000～1,200席のホール。
- ・ 多目的ホールだと無目的となり逆に使いにくいということもある。
- ・ シンフォニーホールほどの過度の客席数は必要ない。
- ・ お金はかかるが、四面舞台のホールをつくると関西や九州からも人が来る。そこに投資をするかどうか。
- ・ 四面舞台や大規模な<sup>せり</sup>迫りは必要ない。
- ・ 国内外からのコンベンション出席者に、開会式や文化プログラムでこの芸文系の特色を活かしたホールを使用いただき「岡山市」を強く印象付けるために都市格にふさわしい外観と内装を有した施設とすべき。

##### 中ホール

- ・ 優れた芸術鑑賞ができる質の高いホール。
- ・ 900席規模で、プロの演劇と市民の創造的な舞台芸術のための演劇専門劇場。
- ・ 600～900席規模の演劇ホールは音楽も兼ねられる。反響板は常設しなくても、備品として設置も可能。

- ・ 600～800 席規模の音楽、演劇など多目的用途のホール。
- ・ 大ホールと性質を変えた 500～600 席規模のホール。このサイズは岡山にない。
- ・ 600 席クラスは、駅前のイオンモールにできるので不要ではないか。
- ・ 多目的は無目的と言われるが適切な機能の選択と設備の充実で解消できないか。

#### その他

- ・ 劇場を創造型にしていく上で、300 席程度のブラックボックス型もしくはフリースペース型のホール、スタジオは最低限必要。
- ・ ステージと同じ大きさのリハ室、練習室など市民活動を応援できるものが必要。
- ・ 席数ばかりでなく、公立文化施設としてあり方を考えないと議論が矮小化する。
- ・ 収容人数を競う必要はない。その前に何を目的にどんな事業を行うかでは？東京のプロモーターの意見に左右される必要もない。
- ・ 現在の市民会館と文化ホールを継承しつつ、足りない部分を直していけば良い。
- ・ 主催者も利用者も使いやすい施設であることが大切。

#### 子どもからお年寄りまで幅広い世代に親しまれるためには？

#### 今まで文化施設に来ることがなかった人に足を運んでもらうためには？

- ・ 広いエントランスロビー。にぎわいと交流の場を。
- ・ ギャラリー、フリースペース、和風ホールなど、様々な市民の表現ができる場を。
- ・ アート作品展示や販売の場としてのスペースがあれば若い人も利用しやすい。
- ・ 岡山では「うらじゃ」が盛ん。屋外練習場など、若い人が集まり、踊りの練習ができる場所を。
- ・ 交流スペース、会議室、情報コーナー、野外広場、親子遊び場、学生の自習スペースなど市民が気軽に立ち寄れるものを。
- ・ 作品創造や作業場としてのアトリエ、広いバックヤードを。創造する場には必要。
- ・ 託児スペース（子どもを預けて鑑賞）、親子室（ガラス張りの鑑賞スペース）が必要。
- ・ カフェなど公演前や公演後に観客同士が交流し、くつろげる場所を。
- ・ 駅から近いなど公共交通機関が使いやすい施設、または駐車場が併設されていること。
- ・ 自然光を取り込み、バリアフリーなど ESD の概念を取り入れる。
- ・ 事業の立ち上げの段階から「市民みんなでつくる」という関わり方ができれば、市民からも当事者意識を持った愛される施設になるのでは。
- ・ 使う側、運営する人で協議を行い、誰もが使いやすい場所に。
- ・ 岡山市文化芸術振興ビジョンに掲げた「したしむ」「はぐくむ」「ささえる」「つなぐ」に「つくる」を加え、これを体現できる場に。
- ・ まち自体に面白さや回遊性があれば、劇場は目立たなくても機能する。逆に魅力的な建物（水戸芸術館など）をつくれれば、まちのランドマークになるのでアピール力はある。
- ・ 市民が誇りにできる素晴らしい建築を（一流の公演は時々でも、一流の建築は常にそこにあり、人を集める）
- ・ 見栄えのある建物は大事だが、最も大事なのは中身だ。劇場を良く知る人に設計を。

## ◆整備の方法

建設整備手法として考えられる効果的なスキーム（市施工、PFI、DBO など）は？  
イニシャルコストを検討する上で必要な項目は？

- ・ 施設整備手法も他都市の施設等からヒアリングを行い、PFI も近年新しいガイドラインが出ているので研究して進めてほしい。
- ・ P F I、D B Oにしても、行政の役割をしっかりと決めて選択する必要がある。

## 【ヒューマンウェア】の視点

## ◆運営の方法

理想の施設の管理方法（直営、公益財団による指定管理、公募の指定管理など）は？

- ・ 岡山市スポーツ文化振興財団と岡山シンフォニーホール財団を一体化した財団を新たに創設し、現在のホールも含めた市内の文化施設を包括的に管理すべき。（現在は、一財団一施設で技術職員の配置などが非効率、また定年まで異動がなく人事管理上も問題）
- ・ 優れた芸術鑑賞と市民の地域活動の両面を熟知した、きわめて芸術専門性の高い公益財団による運営。長期的計画のもとに文化芸術を通じて都市のブランド（岡山固有のブランド）をつくっていくものであり、公立文化施設にオープンな指定管理者公募が必要なのか疑問。
- ・ 行政、民間（施設）、利用者、芸術家が一体となって組む管理を。（「座・高円寺」の取り組みを参考に）
- ・ NPO、ボランティア、市民が入り、主体的なアイデアを出し合うことで創意工夫が図られる運営を（ルネスホールの取り組みを参考に）

サービスの質の確保や創造的事業&市民参加事業の実施に必要な管理方法は？

効率のよい管理運営を行うのに必要なポイントは？

- ・ これからの文化施設は単なる小屋のお守りでなく、管理+事業立案の両輪が必要。
- ・ 事業の企画立案、市民や地域と一緒にあって遂行できる芸術監督が必要。
- ・ 芸術監督は名前だけでなく、市内に常駐し市民の現状を良く知る専門家または市出身の人材を活用すべき。
- ・ 芸術監督制度は全国で様々な事例があるので参考にすべきだ。
- ・ 芸術監督が必要であるくらいのクオリティを求めるべき。
- ・ 芸術監督以外にも、技術監督と経営監督（GM・窓口サービスのトップ）を置き、市民に信頼される施設に。
- ・ 芸術監督が市民が担うべき芸術文化活動をリードすることに問題があるのでは。
- ・ 職員は意欲と情熱を持った人を配置すべき。
- ・ 岡山の人の話を聞き、働きやすい環境の実現を。
- ・ 良い事業を行うには多くの人が必要なのは分かるが、後で財政が厳しくなったからやめると

かにならないよう、人員や芸術監督制度は市財政の中で継続できる岡山らしい方法で。

- ・ 使命に向かって意思と責任を持って運営することが大切。
- ・ 中部地方の文化施設では、地方内の施設間で、任期の済んだ優秀な人材を回したり呼ぶなど行っている。
- ・ 良い劇場では必ず若い人、これからの芸術家、創造的な動きができる人が活躍している。
- ・ 行政的な四角四面な対応にならないように。
- ・ 市民が利用しやすい施設、料金体系を。(金沢芸術文化村では、24 時間 365 日営業を実施している。管理は一部利用者自身がボランティアで担うなど行っている)

## 【ソフトウェア】の視点

### ◆期待する事業

#### 整備された施設で実施すべき事業、プロジェクトなどは？

- ・ 先進施設では、創造、育成、鑑賞、地域との連携といった明確なミッションを設けて、それに従った事業を実施している。
- ・ 年間延べ3万人が鑑賞する市民劇場の継続的取り組みは鑑賞の核となっていける。
- ・ 地域に施設が根を生やしていくには「創る（プロによる事業、芸術家と市民が一体となつてつくる事業など）」ということが重要だ。
- ・ 施設付属の劇団や楽団をつくる施設も多いが維持費がかかるので、地域拠点契約という手法で、大都市の有名劇団・楽団とサブフランチャイズ契約を結び、本公演や、市民との共同制作、団員によるワークショップやアウトリーチを行うというのも一つの「創る」だ。(可児市文化創造センターを参考に)
- ・ 本番だけでなく、公演に至るまでのプロセスも重視した取り組み（バックアップ体制や、公開練習など）を。
- ・ どういう特徴をつくるか。創り手とかソフトに関する会議が別に必要かも。
- ・ 親子で楽しむコンサートなど、ホールを利用していた層とは別の世代に向けた事業など。
- ・ 文化団体の活動を支援する取り組みを。
- ・ 文化芸術に関する多様なワークショップを。
- ・ 岡山フィルハーモニック管弦楽団と岡山市ジュニアオーケストラの一体的運用を。
- ・ 庭や隙間を使った音楽、ダンス、アート、カフェなど若い人の発想を生かす。
- ・ 国や外郭団体の予算を取り、豊かな作品、市民を味方に付けるプログラムを。

#### 施設を含め、地域を活性化させる取り組みは？

- ・ 鑑賞事業だけでなく、市民の参加交流が活発にできるものを。
- ・ 芸術家、文化団体によるワークショップやアウトリーチ事業を。
- ・ 芸術家の指導や共同制作の中から、市民を次の創造の担い手として育成させていく。

- ・ 大学・短大、まちづくり団体との連携。
- ・ 旅行代理店に営業に行くなど、施設側からの積極的な人の呼び込みも求められる。
- ・ 施設ありきの勝手な地域活性化事業ではなく、地域発の活動や資源をどう活かすかであり、地域の活性化の延長上に施設があるのではないか。
- ・ 中山間地域ながら驚異の稼働率を出している久世エスパスの取り組みを参考に。
- ・ 地域の資源、芸能を活かす取り組みを（新潟のりゅーとぴあ能楽堂は、佐渡の能楽を生かしている）
- ・ 単なる貸しホールで終わってはだめ。限界で人の動きがある取り組みを。
- ・ 今の若者は屋外で音楽や演劇等の活動をしているが、そういった活動を支援できる施設運営を。
- ・ 街のアイデンティティを認知させることは、演劇をつくることと重なってくる。根っこをつくることによって、いろんな広がりが出てくる。劇場を街に開くことも重要。

## 【その他】の視点

### ◆その他の検討項目

#### 「岡山市」の都市格の向上や岡山らしさの発信に必要な施設とは？

- ・ ESD 先進市である岡山市の概念（芸術伝統文化の共有・継承、場をみんなで作るということ等）を引き続き発信していくことが、ブランド力、岡山らしさに繋がるのでは。
- ・ 歩いて回れる城下町岡山の良さを生かすべき。また、他都市と同じものをつくってもいけない。そのためには、まち全体のグランドデザインの中で考えないと。
- ・ 岡山では市民の文化芸術活動が盛ん。しかし、それを知らない市民も多い。活動と市民をつなげることができる施設を。
- ・ まちづくりイベントを行っている若い人の中には、岡山を何とかしようと企画・活動している人が大勢いる。また、岡山出身で海外で活躍する若き芸術家たちも大勢いる。彼らと施設を結びつけて、地域を変える取り組みに繋げていけるのではないか。

#### 中四国や周辺市町村と比較した場合、施設の位置づけをどうすべきか？

- ・ 「芸術文化クロスロード計画」岡山市は中四国地方の要衝であり、単なる通過都市に終わらせず、地の利を生かしたまちづくりが望まれる。その一つとして、素晴らしいホール、劇場、音楽堂等を整備することで芸術文化を呼びこみ街のにぎわいと活性化をつくる。一過性のブームに終わらせないためにも、市民自らが生き生きと企画、創造する活動を大切に、市民によってより豊かで継続的な芸術文化活動を目指す。
- ・ 県都岡山として、広域的な役割を担っていく必要がある。

### 基本構想策定までに必要となる検討項目はありますか？

- ・ 立地が決まらない限りは抽象的、理想的な議論になる。
- ・ 現在提示されている 5000 平米の面積と、検討会で上がった多様な機能・設備、人が集まる場所というものをどのように考えていくか。
- ・ 数人で話し合うのではなく、若い人を含めた多くの人が関わって協議する場が別に必要ではないか。
- ・ 劇場に行かない人や若い世代、様々な公演ジャンルの方々からの十分なヒアリングを。

### その他

- ・ 秋のシーズンは音楽祭、芸術祭と市主催事業が集中しすぎてホールが取りにくいので、市民の自主的な活動を支援するためにも時期をずらすなど検討すべき。
- ・ 文化芸術振興基本法や劇場法の趣旨も踏まえ、芸術家・創る側の環境整備や支援も必要。それが文化を大きく発展させる。
- ・ 文化芸術は、国籍、民族、性別、年齢、障害の有無等を乗り越える、現代的要素の様々な課題は文化芸術の力で解決できると信じている。輝くような文化拠点を作ってもらいたい。
- ・ 会議施設と文化施設の兼用の可能性については、設置目的や設備仕様が異なり、会議場の設備機能を芸文系のホールに付加することは、利用頻度からも過剰投資になるので避けるべき。



## ◎望まれる理念・目的、全体像、特色

文化の薫るまちづくりの拠点として期待する理念や目的は？

多くの市民に愛され賑わう施設として期待する全体像、特色は？

まちづくりの視点から、岡山にどのような影響をもたらす施設が必要か？

劇場法の趣旨をどう取り入れるのか？

- ・ 文化芸術振興基本法では「文化芸術を享受しこれを創造することが人々の生まれながらの権利である」、劇場法では「劇場・音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり～(中略)～『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている」と記載されており、単なる建替ではなく、創造機能や社会包摂機能の理念を持った地域文化の拠点として、整備を検討していく必要がある。
- ・ 岡山市文化芸術振興ビジョンの4つのテーマ「したしむ」「はぐくむ」「ささえる」「つなぐ」に、「つくる」を加え、それらを館の理念として体現させる施設と考えてはどうか。
- ・ 地域に根ざし、「岡山市の芸術文化の拠点」として、市民が生き生きと集い交流できる劇場。
- ・ 若者から高齢者、子どもたちから障がい者、あらゆる人が行きやすく、快適に鑑賞でき、そして使いやすい劇場。
- ・ 多くの芸術家の創作意欲をかきたて、思う存分、創造活動を行うことができる劇場。
- ・ ホール（単なる貸館ではない）を拠点に各種創造・交流の場となる「芸術村」を形成し、カルチャーゾーンと共鳴するまちづくりを。若い人、市民が毎日利用できるようなもの。
- ・ どんなときでも人が集え（良い建物でも人が集まらねば意味がない）、憩えるような場所で、岡山らしさを発信できる「愛される建物」に。
- ・ 人が歩いて回れる城下町、旭川や西川、後樂園やお城の緑、そんなまちのデザインの中で、どこにどういった施設をつくるのが最も意味があるか、岡山の特色を出せるかを考えるべきで、施設単体のことを考えても仕方ない。「岡山でしかできないもの」を。
- ・ 岡山を代表する上質の文化芸術の活性化を担う施設
- ・ 子どもたちが憧れる「文化の殿堂」、創造力を育む文化施設。
- ・ 用事がなくても行きたくなる場所、そこに行けば何かがある、様々な出会いのある場所
- ・ 「使いやすく、わかりやすく、心地よい」をキーワードにした施設に。
- ・ 一部の人だけが使うものにしてはいけない。子どもからお年寄りまで幅広い世代が使いやすい施設に。
- ・ 公演のときだけでなく、いつも市民はもとより観光客も集える場所に。
- ・ 「優れた文化を見る、伝える、学ぶ、若者が集う、交流する、創る—」そんな施設に。
- ・ 建物自体に魅力があり、（夜も含めて）日々多くの市民が出入りする空間に。
- ・ 岡山らしい、対外的に政令指定都市岡山という街のファーストインプレッションを与えられる、「都市の顔」となる文化施設を。
- ・ 市民が創る、地域に根付く、継承するという流れがもてる施設を。